

学位授与番号：乙 3 1 7 4 号

氏 名：沖野 慎治

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 29 年 2 月 8 日

学位論文名：

自閉スペクトラム症の注意機能と精神症状との関連性

学位審査委員長：教授 井田博幸

学位審査委員：教授 柳澤裕之 教授 須江洋成

論 文 要 旨

論文提出者名	沖野 慎治	指導教授名	中山 和彦
--------	-------	-------	-------

<主論文題名>

「自閉スペクトラム症の注意機能と精神症状との関連性」

沖野慎治、小野和哉、中村晃士、神田真里、小高文聰、中山和彦

東京慈恵会医科大学雑誌、2016年; 131巻、121-130.

<論文要旨>

知的障害のない自閉スペクトラム症 (ASD without ID) 患者は、しばしば統合失調症と類似した偽精神病状態を含む多彩な精神症状を呈する。先行研究では、ASD without ID の精神症状は特異的な注意機能障害と関連しうることが示唆されている。そこで筆者は、ASD without ID 患者における注意機能障害と精神症状との関連性について調査する目的で、2012年5月から2014年4月の間に当院精神神経科外来を受診した12歳以上で、全知能指数 (Full IQ) が70以上のASD without ID患者25名 (平均年齢: 33.0 ± 9.5 歳) と、年齢をペアマッチングさせた統合失調症患者25名 (平均年齢: 31.9 ± 9.0 歳) および健常被験者25名 (平均年齢: 32.2 ± 8.0 歳) に対して、標準注意機能検査 (clinical assessment for attention: CAT) を施行し、注意機能プロフィールについて3群間で比較検討した。さらに、ASD without ID と統合失調症患者に対して、簡易精神症状評価尺度 (Brief Psychiatric Rating Scale: BPRS) を用いて精神症状と注意機能との相関について検討した。その結果、ASD without ID 群における注意機能プロフィールは統合失調症群と類似していた。ASD without ID 群と統合失調症群は健常者群に比べ、CATにおいて「選択性注意」を反映する Visual Cancellation Task の「3」、「か」の成績と「転換性注意」、「分配性注意」を反映する SDMT の成績が低下していた。一方、ASD without ID 群では BPRS の「欲動性低下」の項目が CAT の「選択性注意」、「転換性注意」、「分配性注意」の障害と有意な相関を認めたが、統合失調症群ではこのような相関を認めなかった。ASD without ID 患者では、統合失調症患者とは異なり、精神症状発現の精神病理の一部は、特異的な注意機能障害と関連すると考えられた。

学位審査の結果の要旨

沖野慎治氏の学位論文は主論文1編、副論文3編からなり、主論文は「自閉スペクトラム症の注意機能と精神症状との関連性」と題する精神医学講座中山和彦教授の指導により作成された論文である。なお、本論文の要旨は慈恵医大誌 131:121-130,2016 に掲載されている。以下、学位論文の要旨と審査結果について記載する。

知的障害を伴わない自閉症スペクトラム (Autism Spectrum Disorder, 以下 ASD と略す) の成人患者は幻想、妄想など統合失調症と類似した臨床症状を呈する。沖野氏は両疾患の症状形成に至る精神病理構造の差異を注意機能障害の観点から検討した。

対象は東京慈恵会医科大学精神科外来を受診し、知的障害を伴わない ASD、統合失調症と診断された患者 25 名と健常者 25 名である。なお、本論文では WAIS-R による知能検査で 70 以上を知的障害なしと定義した。これら 3 群について標準注意機能検査 (CAT) を用いて注意機能障害について検討した。そして、注意機能と精神症状との関連性については簡易精神症状評価尺度 (BPRS) を用いて検討した。

CAT による解析の結果、知的障害を伴わない ASD 患者においては「選択的注意」「転換性注意」「分配性注意」が有意に低下していた。BPRS による解析の結果、知的障害を伴わない ASD 患者は統合失調症患者に比較して低い総得点を示していた。下位項目では「不安/抑うつ」が突出して高く、「敵意/疑惑」が低いプロフィールを呈していた。

平成 29 年 1 月 20 日、柳澤裕之教授、須江洋成教授のご臨席のもと、公開学位審査会を開催し、沖野氏の研究概要の発表に引き続き、口頭試験を行なった。

席上

- 1、 研究対象の男女比の偏り
- 2、 研究対象の知能指数の分布
- 3、 研究対象の臨床的重症度
- 4、 研究対象者の少なさが研究結果に与える影響
- 5、 統合失調症と知的障害を伴わない ASD の臨床的差異

- 6、 統合失調症と知的障害を伴わない ASD の生理機能の比較
- 7、 統合失調症患者で見られる幻覚・妄想と知的障害を伴わない ASD 患者で認められる幻覚・妄想との差異
- 8、 ASD 患者で認められた注意障害の臨床的解釈
- 9、 統合失調症患者において投与薬剤が研究結果に与える影響
- 10、 統合失調症と知的障害を伴わない ASD の鑑別診断の正確性などに関して質疑応答があった。

柳澤教授、須江教授と審議した結果、ASD においては注意機能の低下が二次的に精神症状出現につながり、統合失調症においては精神症状により注意機能の低下が引き起こされていることを明らかにした本論文は学位申請論文として十分に価値があると認めました。